

## 設立10周年記念座談会

### 「NPO法人 コミュニティNETひたち設立10年を振り返って」

出席者 : 内田芳勲 (NPO法人 コミュニティNETひたち 代表理事)  
鳴原育子 (同 元理事、インターソシオシステム(株) 会長)  
高橋 正 (同 理事 事務局長)  
佐藤紀子 (同 理事 )・・・聞き手  
久保 裕 (同 常務理事 )・・・司会

開催 : 平成25年4月24日(水)  
会場 : 「日立アプライアンス株式会社 要害クラブ」



久保 本日はご多忙中のところお集まりいただきありがとうございます。NPO法人コミュニティNETひたち(以下「Cnet」と略記する)は、昨年設立10周年を迎え、当会の設立当初から関わってこられた皆さんと設立後の10年間を振り返っていただきたいと座談会を開催しました。なお本日はお互いに、役職、肩書抜きで「さん」付けで呼ぶことにさせていただきます。始めに、内田さん、本日の座談会のおおまかな方向付けをお願いします。

内田 話が余り発散してもいけないので、一応手元にある10周年記念誌の原稿の年表に従って順に話を進め、その中で、当会にとってエポックとなった事項については、少し時間を取って語り合うことにしてはどうでしょうか。

久保 まず内田さんに10周年を迎えた現在の心境を伺いましょう。

内田 「葉桜や シニアの集い 早や10年」これが心境です。設立時は小舟が荒海に漕ぎ出すような感じで、夢中でやっている間に10年経ったという想いと、もう一つ、志を同じくする理事さんをはじめ、会員の皆さんと共に働くことができて随分楽しかったという想い、そして、設立以来ご支援を賜った地域の行政、企業、各種団体、会員



の皆さんへの深い感謝の気持で一杯です。10周年記念式典には吉成明日立市長を始め多くの来賓にご臨席をいただき深く感謝しております。式典の横断幕、紅白幕、レイアウト等の会場設営、懇親会の料理など会員のみなさんが、一人一役、文字どおり手作りでやっていただいて感激しました。定年後、このNPOで新しい仲間恵まれ、男女共同参加で地域と交流したり、会員相互に群れて楽しんでおります。生き生きと活動するシニアやレディースの笑顔、笑い声の絶えぬ受講者とのやり取り、明るく元気のよい小学生との触れ合い等々を見ていると、毎日が喜びと感謝の日々です。設立当初から紆余曲折もありましたが、苦しかったことも今では懐かしい思い出です。これが10年の歳月ということでしょう。

#### 創業期の思い出

久保 では当会の発足前後の頃から話を進めて行きましょう。インターソシオシステム(株)の経営をされながら当時からNPO法人の活動支援を続けておられる鳴原さんに、当時の状況、貴社とCnetの関わりなどをお話し願えませんか。

鳴原 平成13年頃、当社(株式会社インターソシオシステム)の営業強化を図りたいと思った時に、日立の多賀工場出身で東京に在住の堀池喜一郎さんを紹介していただく機会に巡り会いました。堀池さん

は当時、三鷹でNPOを立上げ、市民活動の拠点を作って活躍されていました。一方、ひたちなか商工会議所では会員の支援策で新たなことをしたいと悩んでおりました。そこで私は、堀池さんのNPO三鷹の活動が参考になると考え、シニアSOHO三鷹の活動をひたちなか地区に紹介したらよいのではと提案しました。



まず手始めに堀池さんの講演会を開催しました。その講演会の準備を当社が受け持ち、会場設定、パソコン、プロジェクト等、準備を進めました。講演参加者募集を各自手分けしまして当日は30人程の方がお集まりいただけました。主婦を始めとして、いろいろな経歴の方がおられました。その中に現在の代表理事の内田さんも参加されていたのです。

この講演の題目は「第二の人生をより有意義に」というようなことでした。当時退職して、次に何をやるかと思案していた内田さんにとって、「琴線に触れた題目だったので参加した」と後に話されていました。講演後、有志で「あさくら」(酒場)で懇親会を開催しましたが、その場にも内田さんは参加され堀池さんに積極的に質問しておられたのが印象的でした。

**内田** やぁ！懐かしい話です。随分時間が経っておりますが鮮やかに甦ります。その日は、堀池さん、鳴原さんを知ることができて歴史的な一日となりました。というのは、当時漠然とNPO法人のようなものを立ち上げるか、既存の組織があれば参加したいと思っておりましたが、講演を聞いてさらにその後の懇談会で一つの方向が見えて、これからはNPO法人の時代だと信念のようなものを感じました。

**鳴原** その後の、内田さんの動きは速いものでした。直ぐに当社(インターソシオ)内に机を用意して欲しい旨の申し出があり、机を用意すると毎日当社に通ってこられ、NPOの事業計画を考え始めました。当時の内田さんはパソコン操作がままならず、当社の社員を捕まえては(笑)、質問攻めにしながら事業計画書や最初のホームページを作成し、メーリングリストの立上げもしていましたね。

**内田** インターソシオ社の皆さんに大変お世話にな

りました。当時は会社の年配者はパソコンの操作にあまり習熟しておらず「ちゃん！頼むよ！」で済ましておりましたから、定年になってはたと困りました。NPO法人の設立に関わるなら、自前のホームページ位は作れなくてはと、当時水戸のハローワークが募集していた「Webエンジニアリング講座」を受け、3ヶ月間若い人たちに交じって、HTML、JAVASCRIPT、PERLの言語を学びました。ここで学んだことを、インターソシオ社に行って実践して指導を受けていたので大変効果的でした。後年この経験が、設立当初より会の正式なホームページやメーリングリストを立ち上げるなど、その他新しいビジネス展開に大変役に立ちました。

**鳴原** いよいよNPO法人の立上げ間近になった頃、「内田さん、NPOはどこで開設するのですか？」と聞いた時の内田さんの回答が今でも印象的に私の胸に残っております。「自分は東海村なので、日立市でもひたちなか市でもいいのだけれど、今まで日立製作所にお世話になった人生だったので、できれば日立市に恩返しにしたい」と。その言葉とおり日立市でNPO法人設立を行いNPO法人Cnetの開設になりました。私もその仲間に加わりました。

**久保** 内田さんは、当会の内部にはこのような話を多く語ってはいないので、設立の経緯を知る上で大変貴重な話でした。なるほどと思う点が多々ありました。

では当会の設立当初のことに話を移しましょう

**内田** 平成13年12月に有志約30人に加わってCnetを立ち上げました。この中に発起人の会澤由友さん、その後初代の代表理事になられる吉澤澄夫さん、副代表理事になられる白石陽一さん、県会議員の井手義弘さん等がおられました。日立市多賀農協の2階に事務所を借りて、みんなでパソコンやネットワークの配線をしたり、必要な什器を運び込んで事務所開設の準備をしました。平成14年1月25日に櫻村千秋日立市長、山本忠安商工会議所会頭にご臨席いただいて事務所開きをしております。当時はまだダイヤルアップ回線でしたが事務所開きに合せてホームページを立ち上げました。その後吉澤さん等と必要な書類を整えて茨城県にNPO法人設立の申請をし、平成14年4月茨城県で92番目のNPO法人としてCnet

コミュニティが発足しました。理事は吉澤さん、白石さん等計13名で私はIT関係担当の理事に就任しました。

**久保** 設立当時から当会に関わってこられた高橋さん、自己紹介を兼ねて入会の経緯をお聞かせください。

**高橋** 私は、設立後間もなく当NPOに入会しました。実は内田さんとは会社に同期入社です。同期の人たちが還暦を迎えて、定年後に内田さんの呼びかけで、初めての同期会を開きました。久しぶりのことで、話が大いに盛り上がりましたが、内田さんはその頃からいずれパソコンを活動の主体にしたNPO法人を立ち上げたい、その時に一緒にやれる同志を探していたようです。設立と同時に声がかかり入会しました。



**久保** 現在Cnetの女性理事である佐藤さん、自己紹介も兼ねてCnetへの入会の経緯をお聞かせください。

**佐藤** 「講師募集！」と書かれたこの会のホームページを偶然見つけたのが9年前のことです。子育てもひと段落し、好きなパソコンを通じて外に一步踏み出したいという、ちょうどそんな折でした。「履歴書」片手に勇んでドアを叩いて…。今でも「履歴書を提出したのは佐藤さんだけだよ」とからかわれたりしますが(笑)、一介の主婦がこの会の活動を通して広く地域社会と関わりが持てるようになり、感謝しております。



**久保** 私は、内田さんとは日立製作所に入社以来、制御用のコンピュータの仕事を一緒にしてきましたから、内田さんがNPOを立ち上げていることはよく知っていました。私は定年退職後、コンピュータの技術を今までしてきた趣味に生かそうとして、パソコンのWord、Excelや画像処理の講習に通いながらぶらぶらしておりますが、3年ぐらい経って地元で根付いた活動をしたいというのが当会へ入会する動機でした。



## 設立当初の活動

**久保** では当会の設立当初のことに話を戻しましょう。設立1年目はどのような活動をしていたのですか。

**内田** まずパソコン講座関係のワーキンググループ(WG)とホームページ作成WG、パソコンをリサイクルするパソコンリユースWGができましたが、設立したばかりのNPO法人にはとにかく、活動の場、すなわち仕事は何もないわけです。私は、当時NPO法人シニアSOHO三鷹に入会しておりましたので、堀池代表理事にお願いしてパソコン教室や講座を開くために、パソコン講座の講師、サポートの心得、講師のパソコンスキルのテストなどを茨城地区で講習をしてもらいました。事務所でパソコン教室を細々と開きましたがビジネスになるほどのものではありませんでした。

**佐藤** 高橋さんもその頃から内田さんと行動を共にしておられますね。

**高橋** 入会した当初は仕事も無く大変な状態でした。内田さんとコンビでパソコンや資料を持って近隣の市町村や各種団体に営業活動に回りました。けれどもできたばかりのNPO法人に仕事を回してくれるところはなかなかありませんでした。この会がやっけて行けるのかどうか、大変厳しい時期でした。真夏のことでしたが、二人であちこち車で走り回った後、昼食にしようと泉ヶ森神社で一休みしました。後年内田さんは当時のことを回想して「緑陰に 遅き昼餉のセールスマン」という句を詠んでいます。

**内田** そのような時に、嶋原さんから自社で受注された近隣の市町村のパソコン講座の仕事を当会に回していただきました。さらに茨城県から再就職者対象にパソコン講座の仕事を受託しましたが、自前のパソコン20台が必要で、インターソシオ社から借用して、ひたちなか市から日立市の多賀事務所まで運んでなんとか間に合せたりしました。会は発足したけれども何も仕事がないときに、正に「干天の慈雨」といった感じで今もその時の感謝の気持を忘れてはいません。

**嶋原** できたばかりのNPO法人が根付くまで協力するのは企業の責務だと思っておりましたので、シニアの皆さんが必死でやっているのを見てできる限り

支援したいと思っておりましたから。

**内田** その他にも活動の場を広げるため、企業向け、個人向けのパソコン設定作業をやらせてもらおうと日立電線の関連会社に約10名が行って教習を受けてパソコン設定の仕事を回してもらいました。これは今も継続しており大変助かっています。

**佐藤** 小学校のパソコン学習支援もこの頃から始められておりますね。

**内田** そうです。当会の初代の代表理事の吉澤さん、発起人の会澤さん(当時多賀図書館長)と私の3人で大久保小学校を訪問してパソコン学習の支援を無償のボランティアでやらせてもらいたいとお願いしました。私達の趣旨説明を聞いていただき、当時の青羽校長が「やってみよう!」と引き受けて下さり、これでパソコンの仕事をしたいと集まった会員の活動の場ができると小躍りするほど嬉しかったですよ。

**高橋** 当会のメンバー10数人が、1年生から6年生までのパソコン学習の時間をフルにサポートしました。これが評価されて翌年から8校のサポートが市の教育委員会より予算化され、次年度は全小学校23校のサポートが始まりました。

### 設立1年後の改革

**久保** 設立1年後に、内田さん以外の12名の理事全員が退任し、その後、内田さんが代表理事に就任しておりますが、この時の状況について聞かせてください。

**鳴原** NPO法人の設立後1年目の事業は思うようにスタートすることができませんでした。もちろん、NPOといえども経費が発生しておりますので、直ぐに立ち行かなくなり、理事の総入れ替えという事態にまで到ってしまいました。当座の運転資金を内田さんが新たな理事に図って用意し、再スタートをきりました。それで、当社から仕事を回すことで少しでもCnetに貢献できればとの思いで、Cnetさんとの関係を継続させていただきました。この時期は、内田さんにとっては、一番つらく不安な時期だったのではないのでしょうか。

**内田** 発足時はバラ色の夢を抱いておりましたが、

現実には厳しく、設立後1年目は事業収入、会費収入共に不調で赤字となり初代の理事の出資金を拠出して補填しました。1年が経って次の総会が近づき、初代の代表理事の吉澤さんが当時の理事に対して理事を継続するか、退任するかを書面で出すように言われました。その結果吉澤さんから、継続してもよいというのは内田理事だけで、他は全員退任の意向だと告げられました。事務所も解約して郵便局に私書箱を置くかなど議論され、まさしく会の存亡の危機でした。これからと意気込んでいたので本当に困惑しました。継続できたのは、小学校のパソコン学習支援、パソコン教室の運営、近隣の市町村のパソコン講座など、1年間の活動でビジネスとして何とかなると手応えを感じておりましたし、パソコン関係のワーキンググループに優れたメンバー約10人も集まってくれていたからです。根底には小学生やシニアの皆さんにパソコンを教えて喜んでいただける笑顔、何か人の役に立つ喜びを感じていましたので、高橋さんをはじめこのメンバーに会を継続して一緒にやろうと呼びかけました。

**高橋** そうです。内田理事を残して12名が辞職することになり、内田さんが理事候補、監事候補に一人ずつ一緒にやろうと説得されました。そのときに「この会を絶対存続させるんだ!」という内田さんの熱意を感じました。この折に、私も理事に就任し事務局を担当して今日に至っています。2年目からは理事8名で再スタートしました。

**内田** 初代の役員は1年でこのような結果となりました。事前の検討が少々拙速で準備が足りなかったかも知れませんが、この時の役員員の勇気、決断があったからこそ、このNPO法人コミュニティNETひたち設立できたことを忘れてはいけないと思います。

**久保** 代表理事に就任に当たりまずやられたことは何でしょう。

**内田** 総会で代表理事に選任されたとき、シニアの良識を信じて会の危機的状況を脱したいと、会の運営モットー

#### 運営モットー 3Cから4Cへ

- CLEVER : シニアの経験、知見の活用
- CREATIVE : 活動の場、生き甲斐の創造
- CHEERFUL : 楽しく、気さくに交流の輪
- CONTRIBUTE : 地域に貢献  
地域と連携、地域と協働体制  
→ 自ら変革継続、スキルアップ

を打ち出し、会員の皆さんに協力をお願いしました。立上げ当初は色々な人の集まりなのでまとまらず、内輪げんかもした苦い経験から、やはりシニアらしく賢くやろう（Clever）営業も積極的に行いシニアの活動の場を確保しよう（Creative）かつての職位職歴などに拘わらず気さくに楽しくやろう（Cheerful）さらに、後年、自分だけの満足でなく地域に役立つ（Contribute）そのためには、自己変革、スキルアップもしよう、と呼びかけました。

まずやったことは「入るを凶って出を制す」です。新しい収入の確保、会員数の増大を講ずるほか、事務局の人員削減、パソコンの講師と事務所当番の兼務、謝金の支払いのキャッシュレス化など事務の合理化、そして過去の職歴にこだわらない人材採用、実務型の理事を選任しました。理事の担当するワーキンググループや職務を明確にすると共に、理事会を毎月1回開いて活動状況や業績のフォロー、新規ビジネスの開拓について議論をしてきました。

**鳴原** 先に話があったように大変厳しい時期を越しましたので、内田さんは、代表理事に就任されると次々に新しいワーキンググループを立上げNPOの足掛かりを固めていきました。これは内田さんのCnetに対する熱い想いがあったからできたことだと思っています。

**佐藤** 新体制になって早速新しいパソコン10台を導入されておりますね。資金はどうされたのですか。

**内田** 当時事務所には、レンタル期間を終了した古いパソコンなどのもらい物で見かけもOSの種類もばらばらでした。これではお金を取ってパソコン教室の運営はできないと考えておりましたが、赤字の決算をしたばかりで新規のパソコンの購入資金は皆無です。そこで、会員に3年後に有利子で償還するからと投資をお願いしました。3年で償還する約束でしたが事業の見通しが立っているわけではなくリスクを伴うことでした。けれどもありがたいことに、理事をはじめとして多くの方が何とかしなくてはと思っていたのでしょ。皆さんが協力してくれ、有志の出資金約200万円が集まり、パソコン10台とプロジェクタ、プリンタなど新品を買いそろえることができました。新しいパソコン10台が入荷してみんなでセットアップをしましたが、「これで自前のパソコン

で存分に仕事ができるぞ！」と、その時の感激は今でも忘れられません。実際はその後収入も順調に増えてお蔭様で2年で償還を果たせました。

人からお金を借りて集め、物を買ったのは後にも先にもこれが初めてです。（笑）

### 新体制での活動

**久保** 2年目から赤字を脱して以後黒字続きになり、活動も活発になっておりますが、浮上のきっかけになったのは何だったのでしょうか。

**内田** 会の運営面では、新理事8名が各々ワーキンググループのリーダーとなって会を引っ張ってくれ、活性化されました。活動の場を広げる、売り上げを伸ばす点では、前記の小学校のパソコン学習支援が予算化されたこと、新しいパソコンを導入してパソコン講座が盛況になったこと、そして近隣の市町村のパソコン講座やホームページ作成の仕事を受託できるようになったのが大きかったです。もちろんこれらに対応できるいい人材が集まり、相互に学習をしてきました。さらに、茨城県、日立市共催で「起業家創出支援」の募集がありこれに応募しました。いくつかの団体が応募し提案コンペが開かれました。当会の使命、活動計画などのプレゼンテーションをした結果、提案が採用され助成金を得ることができました。資金面ではこれが大きかったです。

**高橋** そうでした。これで、インターネット美術館など事業用に使用する高性能のパソコンやカメラを買い揃えたり、会議室、事務室の整備、他所から貰い受けていた、スクラップ寸前のテーブルや椅子を新調したりと、事務所を一新する事ができました。

**久保** 当初の苦境を脱して順調に立ち上がってきたわけですが、主な事業内容の話をしましょう。小学校の学習支援について先ほど話がありましたが・・・。

**内田** 日立市教育委員会との委託契約の主な業務は  
・授業におけるパソコン操作やソフトの使い方指導  
・教職員の情報機器活用に関する支援  
・ホームページの作成、更新支援  
でした。

サポートする学校が8校から23校に増えサポート員を集めるのが大変でした。サポート員専用のメーリ

ングリストを立ち上げて、相互に連絡をしたり、質疑応答でサポート員のレベル向上を図りました。

その後最盛期は市内小学校全25校に男女計25名のサポート員が出向き、毎年4,500時間、パソコン学習の手助けをしていました。

小学校のパソコン学習の充実、学校間格差解消及びホームページの維持更新に寄与することができたと思います。佐藤さんもサポート員でしたね。

**佐藤** ええ。私は助川小学校のパソコン学習のサポートを担当させていただきました。担任の先生や生徒から「佐藤先生！」と呼ばれるのが少しこそばゆい感じでしたが嬉しかったですね。生徒の皆さんが目を輝かせて一生懸命に学習しているのをサポートできて幸いだと思いました。サポートの結果、できなかったことができるようになったときの生徒さんの笑顔が素敵で、珠玉のような時間を過ごさせていただきました。これは各学校を担当しているサポートの共通した思いだったでしょう。

**内田** そうそう、佐藤さんは当時のことを「お日様の光を浴びてちさき子のマウス持つ手の愛らしさよ」と詠んでおられますね。

**久保** パソコン講座の方はどうだったのですか。

**内田** 日立市の視聴覚センター主催のパソコン講座の委託を受けて、講師、サポートを派遣したのを始めとして、常陸太田市、県北生涯学習センターのパソコン講座など近隣の市町村のパソコン講座の委託を受けてやってきました。このワーキンググループは宮垣久典さんが理事就任以来取りまとめておりますが、事務所のパソコン講座も含めて、当会のパソコン講座を受講した人は累積で延べ11,410人、講座数1,147講座になるとのこと、およばずながら日立市のデジタルデバイド解消の下支えになっております。パソコンのスキルを身につけて再就職された方もおられ、お役に立てて喜ばしいことです。

**佐藤** ホームページ作成の仕事にも積極的に取り組んでこられましたね。

**内田** ええ、近隣の市町村の行政、団体のホームページ作成の委託を受けて作成してきました。当会の実績ができて近隣の市町村に業者登録をした結果、入札の参加資格を得ることができてパソコン講座や

ホームページ作成を入札で受注したものもあります。当会が関わった、日立職業探検少年団、ひとり一芸チャレンジ推進運動などで、これらの広報活動には自前のホームページを持つべきだと提言して、多くのホームページ作成に関わってきました。当会の設立5周年記念の折は日立市の主要16公園のホームページを作成して寄贈しました。この中には先様でホームページ作成の体制が整い移管したものもありますが、当会で作った原型がそのまま利用されております。今まであったものを当会が低コスト化することで仕事を持ってくるのではなく、何も無かったところに、当会の提言で有を生じたことに意義があるのだと思います。

**久保** その他にはどのような活動をしてきたのですか。

**内田** 地元の多賀商店会との協働も考えました。国際大道芸や夏祭りに当会で出店して、見物に来られた方の写真を撮影してうちに貼り付けて、販売したり、ポップコーンも機械を借りて来て販売したりしました。その後会員の高齢化が進み、出店のテナントの設営がしんどくなって止めましたが。(笑) 日立市の商店街活性化事業として駅前通りの空き店舗に高校生の自主運営の店「カウッパ(フィンランド語で店)」を開いたときには日立市役所、商工会議所や商店会からの依頼で、大島さん他数名で管理人を引き受けて3年間継続しました。会員の活動の場を広げるために、市や商工会議所の関係で、日立市民の街づくりに関するアンケートの集計業務、日立市の主要道路の交通量調査など、当会のやれる範囲で積極的に取り組んできました。しかしすべてがうまくいったわけではなく、いろいろ営業活動をしたり提案をしたりしましたが、こちらの力が及ばず結果しなかったものも多数あります。

**久保** 会員管理や入出金など、事務局の業務や経理はどのように取り組んできましたか。

**高橋** 私が事務局長に就任する前の最初の頃は手書きの帳簿で管理していて、大変な手間がかかっておりました。その後パソコンを活用して事務局の業務の合理化、省力化を進めました。多賀農協さんの協力を得て、謝金の支払いをキャッシュレスにしたのも一例です。

内田 経理の業務は当初会社の経理だったOBに手伝ってもらいましたが、結局はNPO向けの経理ソフト及び、給料ソフトを導入して技術屋の担当理事が苦労しながら取り組んで使いこなせるようになりました。副代表の大島興洋さんが理事会での業績の月次報告、通期見通し、期末決算の方法を確立されました。事務局の歴代の女性スタッフも有能な方がそろい、現在の仕事のやり方が定着するのに大いに貢献しました。

### クラブ活動、趣味の会の発足

佐藤 なるほど。事業活動の進展についてうかがいましたが、いわゆるクラブ活動、趣味の会に相当するワーキンググループも順次立ち上がっております。いきさつはどうだったのでしょうか。

内田 地域の行政、企業、各種団体のご支援、及び会員の皆様のご協力で何とか当初の苦境を乗り越えることができました。「衣食足りて礼節を知る」と申しますが、仕事々々と言うだけでなく、少しゆとりを持って会員の皆さん同士が楽しく交流できるグループがあってもいいのではないかと・・・。

佐藤 まず「俳句の会」、「デジタル写真同好会」それから「お茶に親しむ会」が発足しておりますね。

内田 「俳句の会」のリーダーは桜井キミ子さんです。桜井さんはパソコンをもっと深く学習したいというのが入会の動機でしたが、長い句歴をお持ちと知り、当会の「俳句の会」の立上げをお願いしました。大学を定年退官された小野 訓先生を紹介していただき、小野先生を主宰として約10名が集まり毎月1回句会を開いております。桜井さんが句会を立ち上げて最初に詠まれた句は「新しき 顔ぶれ若葉 喝采す」でした。句会もこの8月で100回目を迎えます。

高橋 「デジタル写真同好会」のリーダーは小林明光さんです。デジカメ撮影の基本、撮影後のレタッチを学習して、撮影会、作品の鑑賞会、批評会など毎月1回例会を開いております。

鳴原 私も何回か撮影会に参加させていただきましたが、カメラの構え方、構図の取り方など初歩から丁寧に教えていただきました。

内田 小林明光さん、高橋さんは昨年の日立市展の

写真の部で受賞してこの会のレベルの高さを証明しました。

久保 「俳句の会」、「デジタル写真同好会」の活動状況は当会のホームページに掲載されておりますし、両会とも昨年は10周年記念の作品展示会を開催し盛会でした。

内田 最後の「お茶に親しむ会」ですが、リーダーは広田和子さんです。正月と花見の頃に茶会を開いております。高橋さんも茶会の亭主としてお世話をしてくれておりますが、客の私達シニアは物覚えが悪く、お茶の作法がなかなか身につかず、毎年迷惑をかけております。(笑)

高橋 これらの趣味のワーキンググループの他に、春夏秋冬と総会時の年5回の交流会を当会の全体行事として10年間開催してきております。年々盛んになって会員の交流に大いに役立っております。

久保 そうですね。私は春の交流会の代表幹事を引き受けており、毎年、日立製作所の発祥の地の記念碑がある熊野神社の境内で花見の会を開いています。「お茶に親しむ会」と共催することもあります。皆さん見事な桜を堪能して盛会でした。会全体の交流会の他にも「パソコンを楽しむ会」「パソコン技術交流会」の活動も活発ですね。

内田 「パソコンを楽しむ会」は佐藤さんがリーダーですが、インターネットで買物、情報検索、Word、Excelの活用など生活に役立つこと。「パソコン技術交流会」は星川雄さんがリーダーで、ハード、ソフト、システム、ネットワーク等少し専門的な技術が対象、大別するところになります。二つの会とも盛会で大変よろこばしいことです。パソコンはひととおり身につけたけれど、もう少し知りたい、楽しみたいという方に人気が高いようですね。先日も「パソコンを楽しむ会」で豆本を作る講習会があり、「般若心経」の豆本を作ってもらいました。(笑)

佐藤 それから事務室の講座の講師、受講生の溜り場となっている喫茶コーナーのカフェ・シーネットがあります。どのような経緯でできたのですか。

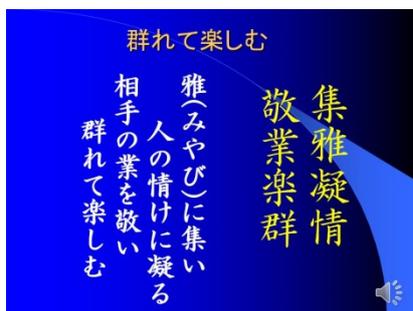
内田 パソコン講座の合間に休憩する喫茶コーナーを作りたいと、根元直子さん、事務局の2代目の女性

スタッフ川崎美智子さんから提案がありました。初代店主の小林和子さんにデザインをしてもらい、事務室の什器を新調するのに合わせてかっこうを整えました。ここは独立採算でやってもらっておりますが、歴代の店主がアットホームな雰囲気作りをしていただいて当会のオアシス的な存在です。

**佐藤** そうですね。ここでパソコンを学ぶお仲間とおしゃべりが楽しみだからと教室に通って来られる方もおられますね。

**久保** 内田さんはその後しきりに「群れて楽しもう」と呼びかけてこられました。

**内田** あるとき上野で開催されていた書道展を見に行きましたら、「集雅凝情 敬業楽群」の書が目に飛び込んで



きました。私流に解釈すると「(雅(みやび)に集い / 人の情に凝る / 相手の業(わざ)を敬い / 群れて楽しむ)」。私たちに当てはめると「相手の業」とはすなわち「パソコンの技術」ですからそう考えるとまさに我々の会の理想を表しているのではないかと思いました。その後、事あるごとに会の皆さんに言って来ました。かなり古びてきたのでいい言葉があれば紹介をしてください。(笑)

**久保** 地域と協働、地域への貢献ということでは「ひたち職業探検少年団」の「ひたちパソコン探検少年団」の指導を引き受けて8年間継続しております。

**内田** 日立市教育委員会、日立商工会議所から打診があり、「ひたち職業探検少年団」の発足と同時に、小学校の高学年、中学生のパソコンに関心のある子どもさん対象に、パソコンの基礎をしっかりと身につけてもらおうと引き受けました。星川雄理事が取りまとめで、佐藤さんも指導員に加わって、短期間にパソコンの基礎、ホームページの作り方、パソコンの解体組立、工場見学、情報処理検定試験3級への挑戦など大変盛りたくさんな内容です。

**佐藤** 工場見学では、内田さんの出身の日立製作所大みか工場（現日立製作所インフラシステム社）に

パソコン探検少年団の団員を引率してうかがいましたが、工場のみなさんが大変わかりやすい説明や親切な対応をしてくださり、協力していただいている企業にも感謝しております。

### ひたちインターネット美術館を開設

**佐藤** Cnetの設立2年後にはひたちインターネット美術館を設立し、その後9年間運営をしていますね。その経緯はどうだったのですか。

**内田** 平成15年9月のことでした。所用でシビックセンターへ出かけたたらたまたまその日が日立市展の最終日で作品の展示は今日で終わるということでしたので、洋画、日本画など急いで展示会場を回りました。明日からこれらの作品群を鑑賞できなくなるのを大変残念に思いました。

早速Web上に「いつでも、どこでも、誰でも見られるインターネット美術館」を構築したいと市民活動課、日立市文化協会に提案、市展の運営委員会に向いてインターネット美術館のサンプルを持参してプレゼンテーションをした結果、皆さんの賛同をいただいて翌年の平成16年9月第40回市展に合せて開設しました。当時の日立市文化協会の大貫幸男さん、大松真津夫さん（いずれも故人）に大変ご尽力をいただきました。大変だったのは展示作品の写真撮影で高橋さんが中心になって取りまとめてくれました。

**高橋** 作品の写真撮影の原則は、作品を損傷しないよう手で触らないこと。そして明るい作品は明るく、暗い作品は暗く、ありのままに撮るといことです。これが簡単のように見えてなかなかむずかしいのです。撮影時の室内の照明、作品の額のガラスやアクリル板の反射、差し込んでくる外光などを考慮しなければいけません。昨今の優れた画像編集ソフトを使えばいかようにも編集できますが、これではどれも絵葉書仕立ての写真になってしまいます。撮影に当たっては灯光器の専用の照明を使い、カメラマンとチームを組む照明係には黒子の服装で来るようお願いするなど、細心の注意を払って撮影をしています。

**佐藤** 作品の撮影には大変苦心をされているのですね。ところでインターネット美術館を9年間運営してきて、現在の状況はいかがでしょう。

内田 インターネット美術館開設5周年で、作者の作品をまとめて鑑賞できるように個人の美術館「作者の部屋」



を開設、平成23年第47回の市展から日立市民文化事業団の計らいで、日立市長賞、日立市議会議長賞、日立市教育委員会教育長賞、日立市文化協会会長賞の四賞の受賞作品はすべてをインターネット美術館に掲載することになりました。現在まで日立市展作品、美術愛好の市民の作品など合計約1,000点、作者の部屋が約70室になっています。

佐藤 インターネット美術館に作品を掲載されている作者の感触はいかがでしょうか。

内田 掲載者から「石垣島に旅行時、友人に自分の絵を見てもらった」、「絵を習った郷里の恩師が見て励ましてくれる」、「ニューヨークにいる娘が見て批評してくれる」、「作者の部屋に10作品を掲載するまで頑張る」、「インターネット美術館の掲載作品は人生の記録だ」、「作品の制作で多くの作品が大変参考になる」などの声が寄せられており、大変喜ばしいことです。

久保 インターネット美術館を開設後9年間運営してきて、もはや日立市の貴重な文化アーカイブスと言ってもいいですね。ところで当会でインターネット美術館を運営する意義はどんなところにあるのでしょうか。

内田 当会の会員の写真撮影、ウェブコンテンツ作成のスキルをフルに活用して活動の場ができること、作品搬入時の掲載受付から作品の写真撮影、コンテンツ作成、公開までの手順で作業を進めますが、毎年、シニア、レディー、延べ約20名が協力して一つのプロジェクトを成し遂げる達成感は大きいです。何より作品掲載者の喜びの声は我々の大変な励みであり、美術作品を文化遺産としてのこせる喜びも大きいものがあります。

佐藤 当会の活動については茨城新聞社の取材があり、大きく報道されました。

内田 平成19年10月26日の茨城新聞の朝刊の一面に事務所のパソコン教室の受講生と一緒に写真入りで掲載されました。同新聞の連載記事「団塊マイウェイ」に取り上げられ、「PC指導」「笑顔が報酬」と大きく見出しがのり、記事には『JR常陸多賀駅近くにある「コミュニティNETひたち」の事務所は、定年退職後も元気に活動する会員たちがあふれている。』と、設立当初から現在までの当会の活動、経緯が私の談話として掲載されました。翌年には、『団塊マイウェイ』と題して同社から新書版の本が発行され、その本の「世代を超えたメッセージ」という章の中に、「IT集団の地域貢献」というタイトルで記録されています。団塊世代のセカンドライフをどう生きるかということが、大きな社会的課題にもなっていたわけです。私たちのNPO活動がその一つの答を出したとも言えると思います。



#### 多賀図書館にパソコン教室を開設

佐藤 平成23年に多賀図書館の視聴覚センターがシビックセンターへ移設されることになり、多賀地区のパソコン教室が廃止されることになりました。そのときに自主グループでパソコン学習していた皆さんと協議して、市に継続するよう働きかけられましたね。

内田 日立市の視聴覚センターが平成23年3月多賀の教育会館（多賀図書館）からシビックセンターに移転され、これまで市民が利用してきたパソコン教室が廃止されることになりました。当会は平成15年より視聴覚センター主催のパソコン講座の委託を受け、講師、サポートを派遣して講座を担当していました。平成18年からは日立市職業探検少年団（パソコン探検少年団）の指導を受託し、当センターのパソコン教室で5年間講義を担当しておりました。

佐藤 私もそこでパソコン講座の講師やサポートを担当させていただいておりました。

内田 パソコン教室の廃止を聞き、平成23年度のパソコン探検少年団の講義をどこで実施するのかという当面の問題と、市民対象に従来どおりパソコン講座を継続したいし、これまで利用してきた市民の自

主グループからも存続を希望する声が上がりました。日立市民の情報技術のスキルアップのため、なんとか従来の形で多賀地区にパソコン教室を継続できないか日立市役所の関係部署と意見交換をしました。条件によっては当NPO法人でパソコンを準備する用意がある旨を伝えました。その結果、従来と運用、管理方法が変わってもパソコン教室を存続させてもよいことになり、まず自主グループの代表に集まってもらって、当会の提案趣旨、内容を説明することになりました。

**佐藤** 平成23年2月のことでした。私も自主グループの代表の一人としてその場におりました。内田さんと高橋さんがパソコンやプロジェクトを多賀図書館に持ち込んで自主グループの代表や関係者約30名に対して、用意するパソコンやソフトの機能や開始時期を平成23年4月1日から利用開始できるようにするとプレゼンテーションをされました。「みんながその気になればできるのだから」とパソコン教室の継続を呼びかけられましたね。

**内田** プレゼンテーションの結果、当会の提案が多くの自主グループの賛同を得られ、提案した内容でパソコン利用者の申し込みの受付を開始し、4月1日オープンに向けて準備を始めました。

**久保** 多賀図書館の研修室にパソコンを準備していたときに、東日本大震災が起きました。そのときの対応はどうだったですか。

**内田** 実はあの震災が起こる直前の3月11日の朝のことでした。すでに発注していたパソコン15台を、その日に搬入したいとメーカーから連絡がありました。当方で受入の都合もあったので後日に変更したら東日本大震災が発生しました。まことに幸いなことに新しいパソコンは難を逃れました。予定どおりに搬入されていたら、どうなっていたか分かりません。多賀図書館の建屋の復旧工事を待って、パソコン教室は多賀図書館のご支援、ご協力をいただき、当初計画より9ヶ月遅れて翌年の平成24年1月から利用開始しました。運営管理は佐藤理事、パソコンの保守は宮原養治侶理事が担当して運用中です。現在15グループ、約120名の市民が好評利用中です。日立職業探検団のパソコン探検少年団の学習拠点にもなっております。

**久保** 当会の10周年記念の事業として多賀地区のパソコン学習の拠点にノートパソコン15台を設置できてよかったと思いますし、市民の皆さんにもっと広く利用していただけたらいいですね。

**佐藤** 東日本大震災の発生時の事務室の状況はどうだったのですか。会員にはどんな呼びかけをしたのですか。

**内田** 当日のパソコン教室の受講生の川又良久さんが、当会のミニコミ誌に次のような手記を寄せられていますので紹介します。

「3月11日金曜日、宮垣先生の講座が始まった。午後2時30分頃今まで経験したことのないような大きな地震。ど〜ん。横揺れ。



立っていられなかった。机の下に潜り、机の脚に掴まって止まるのを待った。先生がパソコンを閉じた。私は閉じるのが怖かった。その後も暫く揺れた。少し静かになったので裏窓を開けてみると農協の石蔵が潰れていた。これは大変なことが起きたと思った。事務所の中の物が散乱していた。皆さんと一緒に本当に良かったと思います」

地震の直後、多賀事務所に状況確認の電話をしても電話が不通、心配していたところ、午後7時ころ宮垣理事から電話連絡があり、事務所の内は書棚などの転倒、散乱があったがパソコン講座を受講中の会員の人は全員無事とのことで安堵しました。翌3月12日事務所に行って内部を点検しました。写真に見るように大変ひどい状況でした。その後余震が少し落ち着いて、有志の方々に事務所の片付けをしました。結局電気や水道の生活インフラが復旧するまで事務所は約2週間閉鎖しました。

## シニア世代の社会への貢献

**久保** 今まで主に当会のことについて話をうかがいました。これからもっと広くシニアの社会参画ということについて話をお聞きしたいと思います。まず日立市のシニアの社会参画についてどのように感じておられますか。

**内田** 日立市の資源は、山、川、海に恵まれた自然、研究、開発、工場施設などの豊かなインフラ、最大の資源は定年になったシニアの人材だと思います。素晴らしい活動をされている人や団体もありますが、その人材の質、数から考えるとシニアの社会参画はまだ十分とは言えないのではないのでしょうか。ここにNPO法人数の資料があります。茨城県内のNPO法人数は690法人（平成25年1月末）人口1万人あたりのNPO法人数は2.3（平成24年11月末）であり、全国47都道府県中下位から第2位の少なさです。県内の法人数は水戸市125、つくば市129、日立市はこれらの約5分の1の24と低調です。NPOの法人数が町おこしの状況に直結はしないと思いますが、一つの指標にはなるでしょう。

**佐藤** 茨城県、日立市ではどうしてNPO法人の設立が低調なのでしょう。

**内田** 理由は色々あるでしょうが、やはり企業城下町であるということが影を落としているのではないのでしょうか。定年後も現役時代の上下関係が隠然と残っており、職位職歴を引きずって新しいことは起こしにくいのでしょうか。そのようなものは、定年後はご破算にしていいと思うのですが……。

**鳴原** そうですね。上下関係の人間関係は会社人の時にはより力を発揮するでしょうが、これをご破算にして新しい団体や組織に加わるのは、上下関係の中で人生の大半を過ごしてきた方には、受け入れるのが難しい。ここが問題なのでしょうね。基本的に人は変わりたくないものです。だから、第二の人生なのに、上下関係にしがみついているのでしょう。悲しいことですが。

**久保** なるほど。これが自分たちの仲間だけでは付き合うが、外に向かっては何もしない、何も起こらない閉塞感をもたらしめているのでしょうか。

**内田** 大抵の会社の社是や綱領には「社会に貢献、地域に貢献」とありますが、それを支えていた会社員は定年になると何故か内向きになってしまうのです。会社に勤めていた頃の仲間だけでなく、一步外に出て、それまで知らなかった地域の人達と交流してその素晴らしさを経験してみたいものです。

**佐藤** シニアの活動が大きな流れとなって地域がも

っと活性化するといいいですね。それも男女協働参画であれば大きなパワーになると思います。

**内田** 日立市のシニア、子育てを終えたご婦人の人材の質、量から考えたら、もっと地域に貢献するNPO法人のようなグループできてもいいと思います。それこそ雨後のたけのこのように……。

**鳴原** 私は内田さんがNPO法人に参画する前から現在までを見てきました。内田さんにとってCnetは第二の人生だったと思いますが、10年を振り返って、これからNPO法人を立ち上げようとするシニアへ助言するとしたら、どのようなアドバイスをしますか。

**内田** NPO法人シニアSOHO三鷹に入会したり、当会の設立に関わった経験しかありませんが、やるからには早く、歩きながら考えた方がよいでしょう。これから勉強してからよりも、自分に足りない物を持つ仲間を集めて、早く立ち上げることです。準備期間が長いとシニアは助走期間中に疲れてしましますから。（笑）。次は当然のことですが、地域や人の役に立つことを会の目的にすべきです。そうすればいい人が集まり、長続きがするのではないかと思います。多くの人が地域のために何かしたいと考えているのですから。それから人間関係で言えば、職位、職歴、先輩、後輩の関係など社歴はあまり持ち込まないということです。これらは一度ご破算にして付き合うべきです。弊害が出ますから。そして最後に運営の基本は、結局は人、物、金、良い仲間を集め、きちんとした運営方針、ルールを作ること。また立ち上げ時の収支悪化、資金不足に耐える手立てと覚悟を持つことも必要です。

#### Cnetの今後について

**久保** Cnetの活動は10年を経過しました。タブレット型の携帯パソコンや携帯電話とパソコンが一体となったスマートフォンが普及し始めました。これからは時代の流れに遅れずに、このような情報技術を共に学びながら、若者たちにおいてきぼりにされないように、シニアとしての経験を生かして皆さんと一緒に活動していきたいと思います。

**佐藤** セカンドステージの場を見いだせて多くの方々とお会えたことを幸せに思っています。この会とのご縁に心から感謝しながら、明日もまた元気で

活動できますように...とっております。私たち女性の会員も「パソコンを楽しむ会」を平成21年から始めて、もう25回も続けることができました。「Cnetなでしこグループ」という名称も付けていただいて、毎回おおぜいの会員の方々が参加してくださっています。星川さんや平田さんが主催されている「パソコン技術交流会」に負けられないように、続けて参りたいと思っております。

**久保** ところで、現在の会員状況についてお聞かせください。

**高橋** 設立以来の正会員は通算で約450名となります。パソコンのことをひととおり身につけて卒業される方、その他の事情で退会される方もおられますが常時120名位の会員数です。皆さんがパソコン学習をしたり、ワーキンググループや交流会に参加したりして楽しんでおられます。一方賛助会員は、日立製作所インフラシステム社、日立情報制御ソリューションズ社、日立茨城情報サービス社、それに日立市多賀農協の4社で、当会の設立趣旨にご賛同いただいて長年ご支援をいただいております、まことにありがたいことです。

**久保** 最後にコミュニティNETひたちの今後についてお話しをうかがいます。

**鳴原** 先程も話しましたが、内田さんは理事の総入れ替えという苦勞にも辞めることなく第二の人生を掛けて取り組みました。私は中小企業の社長ですが社長と社員との違いはただ一つだと思っております。それは何があっても辞めない(辞められない)のが社長です。NPOの代表理事も同じだと思います。10年続いていること、その原動力はCnetへの熱い思いからでしょう。この火を消してはいけないと思えます。この会は、職位、職歴に関係なく日立市近隣のパソコンに関心を持つ男女が協働参画で集まる、活動のプラットフォームです。会社勤めの間は見ず知らずの男女とここで知り合い、新しい交流が始まり、新しい友達になれる、それも地域貢献を果たしながら……。これは素晴らしいことだと思います。今はやりの言葉で言えば、シニア、男女共同参画事業の活動です。(笑)。このような趣旨で集まり活動をしている県北では唯一のNPO法人です。これから先、

5年後、10年後、Cnetがどのように成長をして行くのか、どのように続けていけるのか、大変期待をしております。

**内田** 当会のメンバーは、パソコンを学びたい、教えたいとパソコンを絆に集まった人たちですが、能、茶道、剣舞、詩舞、ピアノ、ハーモニカ、写真、短歌、俳句などをたしなむ、まことに多士済々な顔ぶれです。このような方から「一度あきらめたパソコンと再び向かい合えました。ずっと機械に弱い人たちの味方でいてください」「先生の笑顔に助けられています、同じことを10回聞いても叱らないでください」のメールや、新しくパソコンを始めた方の、パソコンを学ぶことの喜び、驚き、期待を詠んだ「パソコンに わが好奇心 揺さぶらる ゆさぶられつつ 開(あ)く扉あり」「パソコンの 見知らぬ世界に 踏み迷い 迷いつつ進む ひかり降る道」の短歌が寄せられると、このような方々の支えになれるNPO法人を続けて来てよかったなと心底思います。やはり「シニアの生甲斐は人の役に立つこと」、「シニアの最大の報酬は相手の笑顔」です。これからも会員の皆さんと大いに群れて楽しみたいものです。

事業としては、IT関連のインフラも整備され、パソコンに加えてタブレット端末の出現など、当会の出番はさらに大きくなりましょう。当NPO法人は地域に今までなかったことを「0」から「1」にする存在であり続けたいと思えます。そのためには加齢に甘えず、シニアの知恵を発揮しながら地域と協働し、新しい提案を続けていける「清新で活力に満ちた」NPO法人でありたいと存じます。これまでの皆様のご支援、ご協力に厚く御礼を申し上げます。引き続きご指導の程宜しくお願い申し上げます。

**久保** 本日は皆さんにお集まりいただいて、大変有意義な話し合いができたと思えます。おかげさまで平成25年度も会員が120人を越えています。

本日はどうも有難うございました。